今日から始める

自然観察 観察会の味方！ピクチャーカード

自然観察会などで上手にピクチャーカードを使えば、観察のポイントをしっかり伝えたり、その場では見えにくいものを説明したりすることができます。必要に応じて、イラストを加えるなどして、自分のフィールドに適した使いやすいカードに仕立ててください。

森の一年と明るさの変化

主に落葉広葉樹で構成された雑木林の大きな魅力のひとつは、四季の表情がとても豊かなことです。このコーナーでは、雑木林の一年間の変化の様子を、関東地方のコナラの多い森を例にとって紹介します。

四季により大きく雑木林の姿は変わる

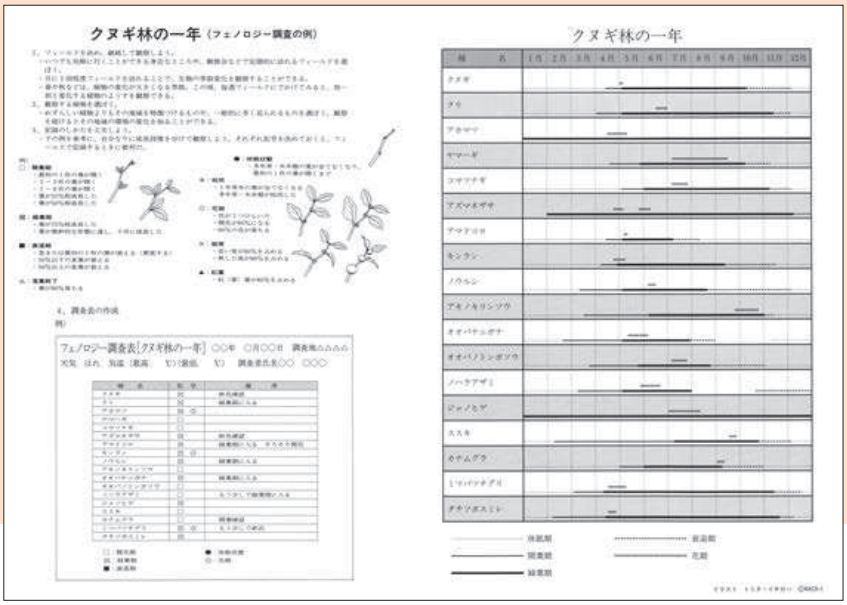
雑木林の木々は、春、ほぼ一斉に芽吹きます。その後、短期間にほぼ一年分の葉を開くか、順次、葉を開くかなどは、木の種類によって異なります。また、葉を開く前に開花するコブシ、葉と花が同時に開くヤマザクラ、葉が開いてから花をつけるエゴノキと、開花時期も木によってまちまちです。

梅雨近くなると、木々の様子はそれほど変化しなくなります。そして、若葉が出そろうのを待っていたかのように、さまざまな虫たちが登場します。こうして夏の終わりまで、雑木林は虫たちの天下となります。

雑木林が秋らしくなるのは、10月に入ってからです。コナラの実（ドングリ）が熟し、やがて木々の葉が色づき始めます。12月になると雑木林の地面は、落ち葉でいっぱいになります。

3月になると、だいぶ日も高くなり、森の中も明るさを増してきます。木々が葉を開く5月ごろまでの間、雑木林は一年を通して、最も明るい時期を迎えます。この明るい時期に合わせて、スミレ・ニリンソウ・カタクリ・シュンランなど、雑木林を代表する草花が花を咲かせます。これらの植物の多くは、林内が明るい春の間に、開葉、開花、結実、という一年の活動の大半を済ませてしまいます。

季節の進み方は地方によって異なるでしょう。あなたの地域にある雑木林の生物暦をつくってみると、森の変化がよく分かります。



▲このカードはウェブサイトに掲載中

※ピクチャーカードのページは「NACS-J ピクチャーカード作成委員会」が制作したものを編集して掲載しています。すべてのピクチャーカードは、NACS-J ウェブサイトの「会員コンテンツ」でご覧いただけます。また、会報に掲載したカードは、ウェブサイトの一般公開ページからもダウンロードできます。トップページ左上の「さがす」マークをクリックして、「ピクチャーカード」で検索！

EPSON
EXCEED YOUR VISION

本コーナーは、エプソン純正カートリッジ引取回収サービスを利用されたお客様のポイント寄付によるご支援をいただいております。

日本自然保護協会　制作：NACS-Jピクチャーカード作成委員会　イラスト：トミタ・イチロー